



# The Bamboo Shoots

～地方季刊新聞～  
大和高田・リズモー都市友好協会 発行  
2016年 春・夏号

No.168

連絡先：大和高田・リズモー都市友好協会  
TEL：0745-22-1101  
http://www.city.yamatotakada.nara.jp/lismore/

このバンブーシューツ(筍)が、大和高田市とリズモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長しますように

## リズモー市の水害

リズモー市は、6月3日から大雨と強風が続きました。6月5日には、川が決壊し一部地域が洪水となり、土地や家屋に被害が及びました。道路は、押し流され、地滑りのため閉鎖しているところもあります。リズモー市は道路の修復や廃棄物等の処理におよそ250万オーストラリアドル(1\$=80円 2億円)かかると発表しました。これらを受け、本協会は、復旧にかかる費用として役立てていただくため、寄付金を募りました。寄付金は集計後、リズモー市に送金いたします。



## ごあいさつ



大和高田・リズモー都市友好協会  
会長 脇本吉清

この度の、大和高田・リズモー都市友好協会総会で、会長を拝命いたしました脇本吉清です。

村島靖一郎前会長様に於かれましては、長きにわたり、会長の要職にご尽力を賜り、誠に有難うございました。心から感謝申し上げます。今後共、時に触れご指導等お願い申し上げます。

さて、リズモー市との関係は今年で53年目になりました。

始まりは、本市でカトリック教会を開設されたグリーン神父様と、当時の名倉市長様が、神父様の出身地がオーストラリアのリズモー市だったことから、本市との姉妹都市交流が始まりました。これは日豪間で歴史的な最初の姉妹都市であります。その後、平成25年には50周年を迎え、シドニーで日本・オーストラリア両政府の記念

式典、また、リズモー市でも記念式典がございました。

この53年間、多くの皆様から都市友好協会を支えていただきました事が、半世紀もの長きの歴史の痕跡として、今も輝いています。元協会役員の藪内吉夫が作られました友好協会の機関紙「The Bamboo Shoots」には、その長き航跡が残され、今も、現在の協会役員様のご協力により、取材・編集され継続して発刊されています。

また、毎年数名ずつの交換留学生が、両市のホストファミリー宅に滞在し、友好を図っています。このように、多くの皆様の手により育ってきた友好協会ではありますが、より多くの市民の皆様に広報活動を広げ、理解を得られやすいように努力し、会員数を増やして行く事と、さらに両市の友好が深まりますよう活動することが、当協会の責務であると考えています。

会員の皆様には、協会に対するより一層の友情とご協力を、また、市民皆様にはどうぞお気軽にご参加願えればと、広く窓口を広げています。今後とも、引き続き大和高田・リズモー都市友好協会に、ご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

## 大和高田市市民交流センター オープン！

市民が集い、共に活動し、共に助け合い、共に活躍し、活動を通じて友となる場として、4月24日開館しました。子育て世代の親子が集う場、高齢者支援や交流の場、多くの人が集い、つらぎ、活動する場になります。さらに、災害時には、全館が避難活動の拠点として機能します。

愛称は、市民からのたくさんの愛称募集の中から、大和高田市の花「コスモス」と交流の広場を表す「プラザ」から、「コスモスプラザ」に決まりました。



## 大和高田市からリズモー市への派遣学生決定

大和高田市からリズモー市への派遣学生が決定しました。随行する高田商業高校の小川実加教諭と共に、次の5名の学生が7月28日から8月8日までの12日間、リズモー市を訪問します。



藤澤奈波

私はこの交換留学に、自分を変えたいという思いから挑戦しました。選考試験を受けることでさえ、私の中ではチャレンジでした。だけど、派遣学生となった今、オーストラリアで約2週間過ごせるのかすごく不安で、大きな挑戦となりますが、前向きに捉えていきたいです。最初の出会いはメンバー4人と先生、大和高田市の広報情報課の方々。次は、リズモー市の方々。この出会いを大切にしていきたいです。大和高田市の代表として自覚をもって、精一杯がんばりたいです。



辻元輝星

僕がこのプログラムに応募した当初の理由は、自身の英語のスキルアップの為でした。でも、目を追う毎に、自分の住む大和高田市に誇りを持ち、この市の文化をリズモー市だけでなく、世界へ広めていきたいと思うようになりました。

今はまだ不安と期待とが交錯していますが、たくさんの思い出と経験を持って帰ってきたいと思っています。



植野美羽

海外に行くこともホームステイをすることも初めてなので、わからないこともあると思いますが、何事も積極的にチャレンジしたいです。大和高田市のことをたくさん勉強して現地の人々に伝え、オーストラリアのこともたくさん学びたいと思っています。多くの人とコミュニケーションがとれるように頑張ります。



許斐翔太

僕は、一度オーストラリアに行った事があります。そこで僕は折り紙を教える機会がありました。その時はまだ英語で折り方を教える事が出来なかったもので、ジェスチャーを使いました。どんな事でも伝えようとする気持ちがあれば、伝わるのだと知りました。リズモー市に行って、もっと日本の文化を伝えたいと思います。そして、大和高田市とリズモー市の53年続いた姉妹都市交流がこれからも続くように、出来ることは何でもしていきたいと思っています。



欠上翔太

今回、リズモー市に行く事が決まり大変嬉しく思っていますが、少し不安もあります。初めて英語圏の国に行くということで、自分の英語がどこまで通じるのか、またホストファミリーの方々と上手くコミュニケーションをとることが出来るのかなど、色々ありますが、高田市の代表として行かせてもらうので自分の出来る精一杯の事をしようと思います。また、今回の派遣で私が一番楽しみにしているのは、現地の高校生達との交流です。今、同世代の高校生と触れ合うことで、日本とオーストラリアの文化の違い、また考え方の違いを知り、それを帰国した際には友人や家族に伝え、そして大和高田市とリズモー市との結び付きをより強くするきっかけになればいいと考えています。



小川実加  
高田商業高校  
教諭

以前にリズモー市を訪問した際、自然の豊かさ、そしてなによりリズモー市で出会ったひとたちの温かさに感動し、今回またリズモーを訪れることができ嬉しく思っています。派遣学生みんなが充実した生活を送り、それが今の人生において宝物となるようにサポートしたいと思っています。